

地域おこし協力隊の活動日誌

地域の新しい活力をめざして



地域おこし協力隊員の活動をお伝えするこのコーナー。今回は総務省の特例措置により任期を延長した中山雄太隊員の活動と、甲斐隆児隊員の積み木を使ったワークショップについて紹介します。

写真で町の魅力発信 中山隊員の取り組み



カメラマンとして地域おこし協力隊に着任した中山隊員は、協力隊の任期である3年の間に、年1〜2回の展示会を企画し、写真や映像を通して新富町の魅力を世界へ発信する予定でした。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行拡大によって、対面での撮影を控える必要が出てきたり、イベント中止が相次ぐなど、撮影機会が大幅に減少。また、展示会の開催見送りなど、活動に制限を受けました。

こうした状況でも、町民の皆さんとコミュニケーションを図りたいという思いから、新富町で約10年ぶりとなる写真スタジオ「ひなた写真館」を新町地区に試験オープン。しかし、写真館について、まだ十分に周知できていないのが現状です。



2022年7月に協力隊を卒業予定だった中山隊員は、総務省が講じた特例措置を利用して任期を延長。引き続き町内での撮影活動を行い、写真館の知名度を高めながら、当初の目的だった新富町の魅力を発信するための展示会開催などを実行していきたいと考えています。

また、移動シアターの事業化も検討していたものの、人数を集められないため、実証実験すら行えませんでした。今後は、移動シアターイベントを実際に開催して実証実験を行い、事業化に向けて取り組んでいく予定です。

写真館や展示会、移動シアターに足を運ぶ機会がありましたら、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。

積み木ワークショップで 新富の未来を描く！

8月16日〜18日、新富町の未来を考える教育プログラム「しんとみ学び塾」が開催され、3日目のプログラムにて、甲斐隆児隊員がワークショップを実施しました。

参加者の中高生たちは、前日までに学んだ新富町のことを踏まえて、残したい魅力や理想の町の姿を付箋に記入。それらを踏まえた「未来の新富町」を、甲斐隊員が用意した1万個の積み木を使って表現しました。商店街の新しい姿や、総合交流センターと学校が合体した建物など、アイデア豊富に「未来の新富町」が形作られ、中高生たちは楽しみながら町づくりに向き合っていました。



こうした積み木を使ったワークショップは、今後も展開していきたいと甲斐隊員は語っています。

今後も町中で協力隊の姿を見かけることがあるかと思えます。ぜひ気軽に声をおかけください。

(文・地域おこし協力隊 二川)

